



【安全は 無理せず焦らず 油断せず】 ・ 【高齢者 自信過剰は 事故のもと】

■ 秋の全国交通安全運動 — 見えないを 見えるに変える 反射材 — 9月21日(日)～30日(火)

日没時間が早まる秋口は、夕暮れ時・夜間における交通事故の増加が心配されます。事故に遭わない、起こさないためにも一人一人が交通ルールと交通マナーを守り、より一層の交通事故防止に努めましょう。

運動重点

- ・反射材の着用、歩行者も自ら注意
- ・夕暮れ時における早めのライト点灯
- ・飲酒運転、あおり運転 絶対しない・させない
- ・自転車ヘルメットの着用
- ・ながらスマホの根絶 など

3 (サン) ・ライト運動の推進 (夕暮れ時以降の交通事故防止対策)

- ・早めのライト点灯と小まめな切り替え
- ・反射材の活用
- ・右からの横断に注意

■ 蜂刺され災害とその対策について

全国シルバー人材センター事業協会によりますと、令和6年度のシルバー人材センター全体の「蜂、犬、蛇等に刺され、噛まれ」の事故は931件発生し、ここ数年は植木や除草作業において蜂刺されによる死亡事故も発生しているとのことです。

蜂がいそうな場所での作業では、作業前に蜂の生息状況を確認し、蜂の殺虫スプレーを常時携帯してください。また、服装は黒地を避け、皮膚の露出をできる限り控えて、ヘアスプレー等の匂いのあるものは避けましょう。ジュースやスポーツドリンク等の匂いに近寄ってくる場合もあるため注意が必要です。

症状

蜂に刺された時の症状には、刺された場所の周りだけに現れる局所症状と、体内にでる全身症状とがあるので、症状をよく観察し、直ちに緊急処置を行うこと。

【局所症状】 刺された箇所を中心に大きい赤い腫れ、かゆみが出る。

【全身症状】 刺された箇所だけでなく、体中に症状が現れる。

軽傷 … 顔や体が飲酒時のように赤くなる。全身のかゆみ、なんとなくだるい。

重症 … 意識が朦朧とする。さらに悪化すると、痙攣、意識消失等が見られる。アナフィラキシーショックを起こし死亡することがある。

処置

- ・刺された場所から速やかに離れる。
- ・毒針が残っていたら速やかに取り除き、毒吸引器(ポイズンリムーバー)等で毒を絞り出す。
- ・冷水で患部を冷やし、毒が回るのを抑制する。
- ・赤く腫れ始めたら、抗ヒスタミン軟膏を塗る。

症状が悪化した場合 ⇒ 「119番」へ連絡し、一刻も早く医師の手当てを受けてください。

時間が経つにつれて、症状が悪化する場合がありますので、刺された直後に目立った症状がない場合も、処置をして安静にし、医師の診療を受けてください。

厳しい残暑が続いています。引き続き、こまめな水分補給や休息等の熱中症対策をお願いします。